

「明日は、いよいよ卒業式。1・2年生、準備をありがとう。」

生徒指導通心  
第37号

縁(えん)

妻ヶ丘中生徒指導部  
令和5年3月15日発行

## ★体育館へ向かう廊下は、未来への滑走路！★



いよいよ卒業式が、明日に迫ってきました。正直、まだ実感が湧いてこない人もいるでしょう。今回の通信「縁(えん)」は、3年生にとって最終号になります。

思い返せば、今年も何とか37号まで「縁(えん)」を書くことができました。この通信を手にとり読んでもらうことで、少しでも「心が成長」「心が晴れやか」になってくれたのであれば、嬉しい限りです。

この3年生は、小学校の卒業式や中学校の入学式からコロナの影響を受け、様々な制限を受けながら生活してきました。しかし、そのような中でも、見事に成長した3年生でした。明日は卒業式。「体育館へ向かう廊下は、未来への滑走路」です。体育館に堂々と入場する姿を楽しみにしています。そんな

3年生に向けて、感謝の気持ちとこれからの幸せを祈り、ラストメッセージを贈ります。

## ★小さなことに大きく感謝できる人★

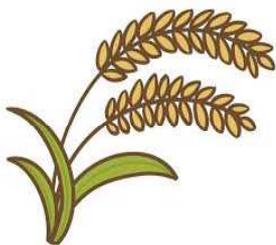
私が講演したときのことで。講演中、私が白板に板書した文字を、タイミング良く消してくれる人がいました。消してもらうたびに、私が軽く会釈(えしゃく)して感謝の意を表していたのです。その所作を見ていた参加者の感想文に書いてあったのが、次の一文です。

「講演の内容も良かったのですが、文字を消される人に、いちいちお礼を言っておられた鍵山さんの姿に感動しました」

この感想文を読んだとき、「小さなことに大きく感謝する」ことが、いかに大きな力なのかということに再認識しました。たしかに、大きなことにはだれもが感謝します。しかし、小さなこととなると、ほとんどの人が軽くあしらいがちです。小さなことに感謝できない人は、どうしても不平不満だけが大きくなります。その結果、小さな困難をますます大きくする傾向があります。反対に、小さなことに大きく感謝できる人は、大きな困難を小さく受け止めることができるようになります。

感謝の念には、困難を和(やわ)らげる効果があるからです。だからこそ、幸せな人生を送るためには、小さなことに大きく感謝できる感受性豊かな人間になることが、何よりも大切なことなのです。

『困ったことばかりでも、何かひとつはよいことがある』 鍵山 秀三郎 著/PHP



人は大きなことには感謝できますが、小さなことにはなかなか感謝できないものです。例えば、「命を助けてもらった」等の大きなことには、誰もが感謝をします。しかし、レストランでお水を注いでもらった時に「ありがとう」と言う人は少ないような気がします。些細(ささい)なことだから、当たり前なことだから、お金を払っている客だから、と思っている人はなかなか感謝しないものです。

大事なものは、人はその小さな行為をよく見ているということです。「小さなこと」や「当たり前のことに感謝できる人」は、謙虚(けんきょ)な心がある人だと思います。

実るほど頭(こうべ)を垂(た)れる稲穂かな

お互いに、成長すればするほど、小さなことに大きく感謝できる人でありたいですね。

# 祝！卒業！

## 3年生との出会いに感謝。

## 健康に気をつけて、頑張れ！

